

▼操舵室から海上を監視する平山さん



海での事件や事故の対応、船舶への安全指導や取り締まり、外国船への立ち入り検査など海上の安全および治安の維持を図ることを任務とする海上保安官。岩国海上保安署所属の巡視艇「ことびき」の船長として活躍しているのが平山さんです。

レットを見て「女性でもこういう仕事ができるんだ」と思い、高校卒業後に海上保安大学校に入學、憧れの海上保安官になりました。

しかし、実際になってみると、女性だからといって甘やかしてくれるような環境ではありませんでした。男性と同様に力仕事や訓練もこなさなければならず、精神的にも肉体的にもきつ

と感じることもありましたが、責任感と緊張感を持って取り組んでいるそうです。船長に着任した昨年の4月、三井化学岩国大竹工場内のプラント爆発事故で油流出調査のため出動し、爆発を目的の当たりにしたときには改めて身の引き締まる思いがしたと話します。平山さんは、岩国沿岸の工場や大型タンカー船の火災などを想

定して放水銃から放水する消火訓練や、海難の救助活動のため船内からの救出訓練などを行っています。現在、瀬戸内海の大部分と宇和海の海域を管轄する第六管区海上保安本部では、女性の船長は平山さん一人とのこと。

「経験のある乗組員のサポートを受けながらさまざまな業務経験を積むにつれ、海の安全に役立っているというやりがいを感じてきました。チームワークをモットーに乗組員と日々訓練を行い、船長という立場で何があっても確かな判断を瞬時にして対応できるようにしたいです。夏は海での事故も増える季節です。プレジャーボートは出発前の安全点検、見張りを確実に。サイズの合った救命胴衣を必ず着用してください。海の事件・事故は『118番』へ連絡してください。すぐ駆け付けます!」と凛とした笑顔で力強く話してくれました。



▲ライフゼム空気呼吸器を装着しての救助訓練



▲4基の放水銃を装備する消防機能型巡視艇「ことびき」は全長37m



海の安全を守る

Vol.52

平山 恭子さん
(門前町在住)

海上保安大学校卒業後、横浜海上保安部、呉海上保安部、本庁勤務を経て、昨年4月から岩国海上保安署所属の巡視艇「ことびき」船長に着任。

